


佐渡市幼稚園、小・中学校の先生方へ

# きょういく さど



令和4年3月23日

第81号

佐渡市教育委員会

学校教育課

## 地域学校協働活動の推進を

教育長 新発田 靖

今年度は新型コロナウイルス感染に係る様々な対応に追われた1年であったと思います。また、小中学校ではタブレット活用に積極的に取り組んでいただきました。様々な取組の素晴らしさに尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、このように大きな変化が起きているときではありますが、標題に掲げたことも欠かすことができません。佐渡市全体でも「地域コミュニティの活性化」が叫ばれ、その取組が進められます。幼稚園・学校において、ますます「地域とともに」が重要となります。

文部科学省は、令和4年3月に「コミュニティ・スクールの在り方に関する検討会議」の最終まとめを出していますが、令和3年11月の検討会議では、次の地域学校協働活動を一体的に進めることを示しています。

### ○協働活動

地域人材育成、郷土学習、協働防災訓練、学習・部活動等支援、花壇整備、登下校の見守り 等

### ○体験活動

社会奉仕体験活動、自然体験活動、職場体験活動 等

### ○放課後等の学習活動

放課後・土曜日・休日等おける学習、スポーツ活動 等

すでに取り組まれている内容もあると思いますが、さらに一步踏み込んだ取組を行っていただくことをお願いします。

社会教育課・学校教育課・教育総務課が支援します。みんなでよりよい佐渡の教育を創り上げていきましょう。

## 絶望を希望に変える管理学

管理主事 福井 晴人

最近、高校生の娘に勧められて一冊の本を読みました。「絶望を希望に変える経済学」（日本経済新聞出版）。著者はノーベル経済学賞受賞者のアビジット・V・バナジーとエステル・デュフロです。バナジーらは、この本で、移民や経済成長の問題を取り上げ、現在世界では格差と二極化による分断が蔓延しており、その格差と分断が、現在世界で憂慮されている様々な課題を生み出していると指摘します。そして、その解決のために、格差や不平等をなくし、人間の尊厳を核としたもっと公正で人間らしく生きられる社会を構築するよう提言します。

現在、日本の親子関係は経済的で構造的な危機に瀕しております。今後、その危機は学校教育にも大きな影響を及ぼすでしょう。残念ながら、例えばGIGAスクール構想等を手段としたITによるソリューションやスクリーン・ニューディールには、この危機の解決ができるとは到底思えません。私たちは子供たちに何を与えられるのか。そのために管理は何ができるのか。もっと真剣に考えなければいけません。

学力をその子どもに合ったコンピテンシーに昇華させる、数学と国語をきちんとやる。この2教科をきちんとやっておくことで、言葉の正しい使い方が分かるようになります。そして、管理は、人間の尊厳を核とし、公正で人間らしく生きられる組織の構築にシフトしていく。私の考える、これからの学校です。今日より悪い明日を直視する「徹底したリアリズム」から目を背けず、立ち向かうこと。これが今、私たち大人に求められていることであり、子供たちの絶望を希望に変えるヒントになると、私は考えます。

**集団づくりなくして学びなし**

指導主事 小田 俊裕

私がまだ若手教員だったころ、先輩から「よい授業をすればよい学級が育つ」と言われ、積極的に授業を公開し指導を受けた時期がありました。ところが、ある授業研後の協議会で「学級経営がしっかりできていなければ、授業は成立しない」と指導されました。未熟な私は授業と学級経営どちらが先？と悩んでしまったことがあります。

授業改善の取組と学級経営どちらが先と決めることはできません。どちらも大事なことです。しかし、教師と子どもたちの関係が良好でなければ学級は荒れていき、集団として機能しなくなってしまう。そのような状況で子どもたちは主体的に学ぶことはありませんし、対話をすることもありません。

上越教育大学の赤坂真二先生は、学級経営と授業を以下のように例えています。「パソコンのアプリケーションソフトだけ高性能にしても、それを起動するOSが低機能だったらアプリが動きません。アプリが高性能になるほど、それを動かすOSにも相応の性能が求められます。～中略～

主体的・対話的で深い学びとは、かなり高性能なアプリです。それ相応の集団が必要となってくるのです。」（教育新聞2017. 4.2「主体的、対話的で深い学びに向けた学級経営」）つまり、集団づくりなくして学びはありません。主体的、対話的で深い学びを実現するために、良好な人間関係づくりを土台とした学級経営は必須です。

さて、令和3年度も終わります。授業改善の取組を振り返るとともに、自身の学級経営を振り返ってみませんか。子どもたちに笑顔で接することはできたでしょうか。子どもたちと良好な人間関係は築けたでしょうか。学級のルールは機能していたでしょうか。年度末・年度始は学級経営をアップデートする絶好の機会です。

**学び続ける教師の姿**

教育指導主事 村川健太郎

令和3年度の佐渡総合教育センター主催の研修12講座のうち、4講座はオンラインで実施しました。当初から予定していたものに加えコロナ禍でやむなくリモートに切り替えたものもあります。対面、リモートにかかわらず、講師の方々からは異口同音に受講者である先生方の熱心で前向きな姿について賛辞をいただきました。多忙な中でも、研修の学びを校内で共有していただいていることにも感謝いたします。

学習意欲向上プロジェクトでは、島外視察1件、対面での講師招聘の研修が2件の実施で、感染拡大の影響を受け、リモート研修に計画変更を余儀なくされたケースも多くありました。次年度も感染状況を気にしながらの実施になりそうです。学校現場が使いやすい事業になるよう、情報の提供や弾力的な運用等に努めたいと考えています。

個人研修となる「授業力UP研修講座」では本年度3名（小2名、中1名）の実践がありました。6月の開講式に始まり、設定した個人テーマに沿って、それぞれが3度の授業研究を経て、修了証書を手にししました。指導者の指導や助言を受けながら、実践を重ねている姿は、正に「学び続ける教師」そのものでした。

学ぶ教師は学ぶ子どもを育てます。次年度も是非、積極的な研修参加をお願いいたします。

**令和4年度の学校評価の取組について**

来年度の佐渡市教育委員会への共通報告項目は、今年度に引き続き右の2項目です。キャリア教育や体力向上の取組等については、報告の必要はありませんが、各校においてPDCAサイクルのもと実施、評価、改善をお願いします。

- ① 学力向上の取組の充実
- ② いじめ・不登校を生まない学校づくり